

### 3. 消費地からのホットニュース、トピックス

#### **東京銀座で啓翁桜の消費拡大キャンペーン ～一足早い春の訪れを1千本の啓翁桜にこめて～**

去る1月17日、東京銀座の数寄屋橋にて一足早い春の訪れを告げる、山形県産啓翁桜の消費拡大キャンペーンが山形県青果物基金とJAグループ山形、県の共催で開催された。

当日は前日までの寒さが嘘のようなぽかぽか陽気のなか、正午の啓翁桜プレゼント開始前から300人を超す長蛇の行列ができ、キャンペーンが開始されると、真っ赤な衣装に身を包んだフラワークイーン3名が「山形県の啓翁桜です。よろしくお願いします。」と声をかけながら、東京商科学院専門学校と国際フード製菓専門学校の学生さんの協力で、きれいにラッピングされた啓翁桜を一人一人に手渡し、用意された1000本の啓翁桜は開始20分で全てなくなった。可憐な薄紅色の花を手にした消費者は、笑顔をほころばせながら「きれいねえ」と、満足げな様子であった。



**色よし、味よし、姿よし 天童市のサクランボが初入荷**  
**～1月5日に京浜市場初荷を飾る～**

1月5日の京浜市場初荷を飾るように、山形産サクランボ(佐藤錦)が初入荷した。化粧桐箱1ケース(300グラム)で、2Lクラスが3万円、Lクラスが2万円、Mクラスが1万円と、前年と同じ値段で取引された。

昨年の秋口から低温寒波が続いたが、品質は申し分なく、色つき、大きさ、甘さともに良好で、不況下でも好値スタートとなった。

今年から山形県は「青果物安全だより」により、残留農薬検査の状況や栽培状況を一般に公開、日本一安全な農産物の産地を目指しての活動を開始した。その第1回目はこのたび出荷されたサクランボを取り上げている。安全をセールスポイントにした消費拡大を図っていきたい。



**平成14年の消費生活10大ニュースから**  
**～たべもので動揺 不安色濃く浮きぼりに～**

平成14年の1年間の消費生活にまつわる10大ニュースを、国民生活センターと日本消費者協会がそれぞれ、年末に集約し公表した。

10大ニュースは、相談が急増したものやモニター調査等から選ばれたが、一昨年の牛海綿状脳症(BSE)に続き、14年は牛肉や加工品の産地、品種、日付などの偽装事件、無認可の食品添加物を含む香料使用での商品回収、輸入中国野菜の残留農薬、無登録農薬事件など、特に食の問題に消費者が敏感に反応した年であった。

また、肝機能障害など、深刻な健康被害が多発した中国製ダイエット食品を含む健康食品の相談が激増し、やはり食をめぐる不安が色濃く浮きぼりにされた年でもあった。

紙面の都合でそれぞれ第3位までを挙げると次のとおり

- (1) 国民生活センター  
食品についての偽装問題などが続発  
出資金投資商法で広範な被害  
中国製ダイエット健康食品で死亡者
- (2) 日本消費者協会  
地に落ちた食品の信頼性。消費者無視の企業姿勢  
住民基本台帳制度始まる。どうなる個人情報保護  
原発の故障隠し相次いで見つかる

### **業界紙が選んだ2002年の卸売市場重大ニュース ～食の安全・安心、信頼性低下が浮き彫りに～**

農業や、食料、流通関係の業界紙が、2002年度の重大ニュースとして取り上げたニュースをピックアップしてみた。

#### 1. 国内外の農薬問題、青果物でも偽装表示

雪印食品による牛肉偽装、全農チキンフーズの虚偽表示、協和香料科学の無認可香料使用、日本ハム偽装処理、輸入野菜の残留農薬問題、野菜では無登録農薬が全国的に使用されていたことが明らかとなって、食の安全安心が大きくクローズアップされた。

#### 2. 卸売会社の統合、合併が相次ぐ

築地市場、北足立市場、千葉市場が、卸2社体制から統合、合併により1社体制に移行した。この業界再編の動きは今後さらに加速すると予想される。

#### 3. 求められるトレーサビリティ

生産履歴追跡情報と言われ、誰がどんな生産管理を行っているか、農薬の使用や防除記録なども遡って追跡できるシステムがトレーサビリティである。産地の虚偽表示も防止できるとあって、2002年の流行語的な言葉となった。

#### 4. 野菜の市況低迷

景気は下げ止まりといいながらも先行き不透明のなか、年間を通じた取扱実績は数量では対前年比95%、売り上げでは98%となった。年末には低温寒波などで徐々に高値で推移したものの、北海道産たまねぎなどは前年(2001年)からの安値で4

月に7500トンを廃棄。2002年産も9月から価格が低迷し、49000トンと過去最高の廃棄量となった。

## 5. 卸売市場の手数料自由化

手数料自由化は、規制緩和の流れの中で避けて通れない問題。農林水産省は2000年から実施の方向にあったが、業界などの反対も強く3年程度の猶予期間を設置していた。農林水産省は、今後の自由化に向けてのスケジュールを明示する段階へと進んだ。

### **増加が期待される野菜ベスト40 ～日本農業新聞社が03年1月公表～**

日本農業新聞社が平成14年に今後増加が期待される野菜について調査を行った。対象は全国の全農県本部、卸売会社、量販店、小売店、外食産業、生協など300箇所にアンケート用紙を送付し、回答のあった95箇所を集計した。

注：得点は、10%以上増加すると思われるものを+2点、5%程度増加するものは0点、減少するものが-1点として集計

順位	品目	得点	伸びが予想されるプラス要因
1	高糖度トマト	74	フルーツ感覚の甘さが人気でさらに浸透
2	ゴーヤー	68	夏の健康野菜 テレビの影響で定着へ
3	茶豆系(ダダチャ豆など)	62	食味のよさで個別化商品の地位確立
4	エリンギ	61	食感のよさ、使い勝手のよさで認知度アップ
5	ブロッコリー	56	緑黄色の栄養価が魅力 国産に期待大
6	ベビーリーフ	49	業務主体にサラダ需要増 包丁いらす
7	パプリカ(国産)	46	彩りと甘さが魅力 国産の安全性に期待大
8	ミズ菜	42	鍋物で春菊からシフト 関西以外での消費増
9	ルッコラ	39	サラダ需要で若者主体の消費
10	アスパラガス	39	料理しやすさ、健康イメージから増加
11	サラダホウレンソウ	38	サラダ需要でよく使われるようになった
12	その他ハーブ類(バジル以外)	37	イタリア料理の浸透で若い主婦層に人気
13	きゅうり(ブルーム)	36	ブルームはきゅうり低迷の救世主との見方が強い
14	ローメインレタス	34	既存のレタスからの移行が目立つ
14	バジル	34	イタリア料理の浸透で伸び
16	調理用トマト(国産)	33	イタリア料理に加え輸入物の不安感が追い風

17	まいたけ	28	食感のよさ、使い勝手のよさ
18	レタス	27	サラダ需要で根強い人気
19	ほうれんそう	26	健康野菜、緑黄色野菜として再び注目
20	パプリカ(輸入)	25	輸入物の品質に高い評価 彩りに欠かせない
21	トマト(桃太郎系)	24	サラダなどに欠かせない 甘さに評価大
22	ミニトマト	22	形、彩りの面で業務に必要不可欠
23	オクラ	21	独特の粘りが健康野菜として定着
24	ズッキーニ	20	イタリア料理として定着
25	ニンニク	18	健康野菜として再認識 評価高い
26	サンチュ	17	焼肉人気でこれからも続きそう
27	青ねぎ、小ねぎ	15	関西以外での消費が伸びてきている
28	チコリ	14	イタリア料理など食生活の変化が追い風
28	サニーレタス	14	サラダ需要に支えられている
30	下仁田ねぎ	12	地域伝統野菜の中で確立した地位を保つ
30	スナックエンドウ	12	歯ごたえが魅力 食べ方も定着
32	壬生菜	11	鍋物での利用方法の認知度高まる
33	ブナシメジ	10	価格も手ごろで消費者に定着
33	かぼちゃ	10	緑黄色の栄養価が魅力 国産に期待大
33	ミニかぼちゃ	10	調理しやすく新品種登場が追い風
33	にら	10	スタミナ野菜として健康志向にマッチ
33	調理用トマト(輸入)	10	イタリア料理人気で不可欠
33	白ねぎ	10	関西での需要も増 やわらかさがカギ
39	小松菜	9	健康志向で評価が高まる 料理し易さも長所
40	インゲン	8	緑黄色野菜として栄養価が評価される

#### (コメント) バイヤーの見方

売れる野菜のキーワードは「おいしさ」、「健康」、「簡便性、扱いやすさ」である。グレードアップした味や機能が備わっているものが有望株。(高糖度トマト、茶豆など)

減少しそうな野菜は「調理に手間のかかるもの」で、女性の社会進出などで調理時間が短くなっていることが原因。ただし食べ方、栄養価、機能性など消費者に伝えきれないものもあり、提案次第では伸びる可能性もあり。